

「永吉小学校の永吉太鼓踊り」伝承活動の取組

1 学校名 日置市立永吉小学校

2 学年・人数 小学3年生から6年生（計26人）

3 場所・日時

- (1) 練習の場所・日時
永吉小学校体育館・校庭（9月）
- (2) 発表の場所・日時
永吉小学校秋季大運動会（10月2日）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

- (1) 名称
永吉太鼓踊り（ながよしたいこおどり）
- (2) 由来

永吉には古くから武士踊り、鎌手踊り、棒踊り、太鼓踊りがあるが、この永吉太鼓踊りの由来ははっきりしないほど古いものである。一説に、豊臣秀吉が朝鮮出兵を行い、戦勝帰国した島津義弘公を祝福するために始められたと伝えられている。以前は、諏訪神社に奉納踊りを年中行事として旧暦の7月25日に行われていたが、戦後中止になり、その後1、2回実施された。勇ましく賑やかな踊りである。国家や郷土の祝い事があるときに踊られてきたものである。

- (3) 構成等

2列で行進し、神社境内または広場の踊り場に入るが、4人の中打を先頭に踊りながら大太鼓が続く。大太鼓は列外に行進し、1列は右にもう1列は左に進み、次第に大円形をつくり、小太鼓は中央に小円形をつくって歌に合わせて踊る。

1回踊るのに約15分～20分を要する。本番の時は、ハチマキやタスキを付け、背中に花の付いた矢旗を背負い、中打の入鼓は女性用の派手な着物を着て、おしろいと口紅で化粧をする。

5 保存会や地域との連携の具体

古来より草田地区を中心に伝承されてきたが、踊り手の減少により、近年、永吉地区公民会の支援のもと、「永吉太鼓踊り保存会」として活動している。この「永吉太鼓踊り」は、今は3年に1度行われ、神社での奉納後、地域内十数か所で踊られている。

これまで永吉小学校では、この踊りを小学生が踊りやすいようにアレンジした踊りを運動会で披露してきたもので、太鼓などの道具も本物でなく学校で作った物であった。

そこで、平成22年度から、本物に近い踊りにしようと、「永吉太鼓踊り保存会」の協力のもと、保存会の方々に指導をお願いし、1学期から練習を始めた。まず、永吉太鼓踊りの由来を学び、指導員による鉦（かね）や太鼓の試験打ちを聴いて、打ち方練習から行った。秋の運動会に向けて、保存会の方々に夏休みも含めて約10回ぐらい指導していただいた。また、市の夢づくり事業の補助金等で和太鼓を購入したり、保存会の太鼓や鉦を借りたりして少しずつ本物の永吉太鼓踊りに近づけた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

まず、「永吉太鼓踊り保存会」の方々と会合をもち、協力を依頼したところ、快く引き受けていただいた。その後、具体的に練習日程や内容等打合せを行った。

学校での練習では、ただこれまでどおりの練習をするばかりではなく、この伝統芸能の由来を子どもが理解し、一つ一つの曲や踊りが何を表しているのかを考えて演奏したり踊ったりするよう助言し、親しみながらより表現豊かな踊りをめざした。

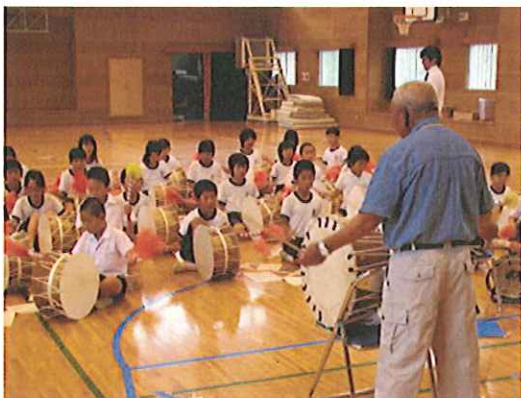
また、和太鼓購入や借用等において太鼓取扱い店や地区公民館との打合せも数回行った。

保存会の指導者には、運動会だけでなく地区の文化祭における発表の際も、たすきや飾りの取付に協力していただいた。

年々児童数が減少し編成上の課題もあるが、中・高生の参加等も含め、今後もこのような伝統芸能を継承していくよう、積極的に推進していきたい。本校を卒業した中・高生が小学生に踊りの指導を行う機会がもてればと考えている。

踊りの練習や運動会での発表の様子等を学校だよりで保護者や地域に広報している。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



保存会の指導による練習風景



保存会の指導による練習風景



秋季大運動会での発表



地区公民館文化祭での発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

子どもたちは、自分たちの踊りをより本物に近づけたいという意欲をもち続け、長期間にわたって熱心に練習に取り組むことができた。それは、「永吉太鼓踊り保存会」の方々から直接熱心な指導をしていただいたことと、保存会と緊密に連携を取って無理のない練習計画を立て、子どもたちを励まし続けた担当の教職員の熱意によるものであろう。練習を重ねるごとに、子どもたちは目的意識をしっかりともち、活動に主体的に取り組むようになってきた。

また、上級生が下級生に太鼓のたたき方や動きを教える姿も見られるなど、子どもたち同士の連帯感や協調心が感じられるようになった。

運動会での発表終了後、子どもたちから次のような感想や意見が聞かれた。

- 無事に終わってほっとした。来年は〇〇さんのようにもっと上手に踊れるようになりたい。
- 保存会のおじさんたちが分かりやすく教えてくださったので、意外と早く覚えることができた。

運動会終了後の反省会では、保護者や保存会の方々から次のような声が聞かれた。

- 自分たちが子どもの頃は、人数が多かったために踊りたくても踊らせてもらえなかった。今の子どもたちは恵まれている。
- 1回きりの発表ではもったいない。学習発表会や地域の文化祭などでも踊りを披露してほしい。
- 6年生になれば本物の太鼓を使い、身にまとう飾りも豪華になる。下学年の子どもたちはその姿にあこがれて、これからも一生懸命取り組むだろう。
- 地域の踊りは3年に1度の開催であり、踊り手などの後継者育成にも苦労している。小学校での取組がきっと地域の「永吉太鼓踊り」の発展につながっていくものと期待している。

子どもたちの発表の様子を見ながら、昔を懐かしみ、涙を流していらっしゃる地域の方の姿もあった。「永吉太鼓踊り」は地域の重要な文化財であり宝である。学校の教育活動として地域の方々との触れ合いを通して伝承活動に取り組むことで、子どもたちはふるさと永吉のよさを感じ取り、ふるさとを大事にしていこうとする心情や態度が養われるものと考えている。